

OKAYAMA COC+

NEWS LETTER

岡山県立大学 COC+ニュースレター

PICK UP

「地域創生推進士」 第一期生を認定

副専攻「岡山創生学」を履修し、「おかやま」への深い理解と熱い愛情を持ち、「おかやま」の創生に貢献したいという強い意志を持った「地域創生推進士」の第一期生として28名が認定されました。

VOL.4

2019.4.1



LOCAL INNOVATOR

晴れの国“おかやま”で学んだ

「地域創生推進士」誕生

地域創生推進士とは、「地域で活躍できる人材」の育成を目的とした副専攻「岡山創生学」で定められた科目を履修して、単位を取得し、修了した学生に対して、岡山県立大学が認定し、授与する称号です。

“おかやま”というフィールドに興味を持ち、社会に対する視野を広げ、理解を深めるための社会連携教育プログラムを学ぶことができました。そして、地域が抱える課題を認識し、フィールドワークやインターンシップを通して、課題解決プロセスを考え実践してきました。



学長から認定証の授与



「地域創生推進士」第1期生28名を認定

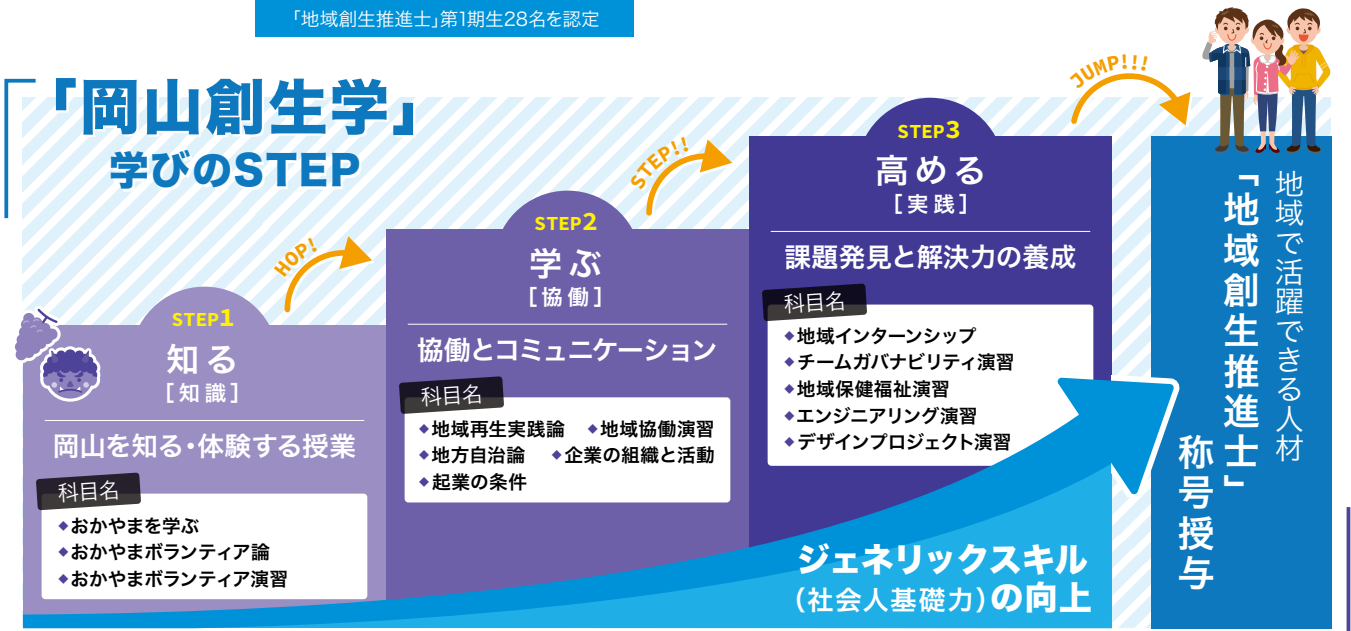
期待される「地域創生推進士」

“おかやま”への深い理解と熱い愛情を持ち、“おかやま”の創生に貢献したいという強い意志を持った、次世代を担う人材です。

- ☑ 地域貢献に関する理論と実践を身に付けてます。
- ☑ 社会に出て活躍できる社会人基礎力を備えています。
- ☑ エネルギッシュな情熱と活力で地域を活性化することができます。
- ☑ 協働を通して、地域をプロデュースすることができます。
- ☑ 地域資源のブランディングを積極的に手掛けることができます。

「地域創生推進士」とは！

「岡山創生学」 学びのSTEP



「地域創生推進士」としての未来



保健福祉学部
栄養学科 4年
板谷 智恵美さん

「岡山創生学」では、段階的に主体性をもって、興味のある分野について地域に出て学ぶことで、それぞれの専門分野で活かすことのできる力を自分なりに発見できると 생각합니다。

私は栄養学を専攻しており、今後、岡山県内の病院で働きたいと考えています。将来の職場では、患者様に対してより良いケアを提供するため、「岡山創生学」で培った課題解決力を活かし、課題に向き合い、社会で活躍していきたいと思っています。

「地域創生推進士」を目指しています



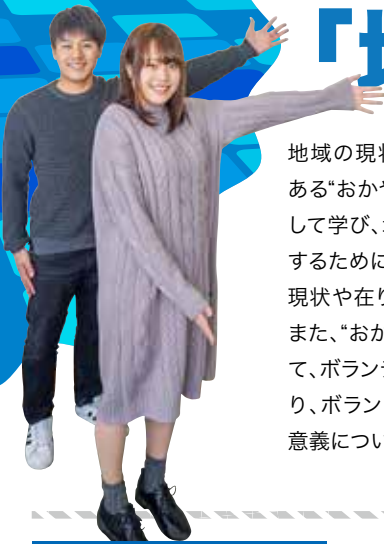
デザイン学部
デザイン工学科 3年
橋本 拓磨さん

私は大学の中だけでは学ぶことのできないことを地域から学んでいます。地域に寄り添うことで、地域の課題や問題点が見えてきました。また、解決に向けての方策を地域から示される前に、自ら提起し実行しました。

私たち学生にとって、「地域」とは自らに足りない自主性を高めてくれる成長するための肥料ともいえるべき貴重な存在です。これからも「地域」から多くのことを学び、「地域創生推進士」となり、私を育ててくれた「地域」に恩返ししたいです。



「地域創生推進士」の歩み



地域の現状とグローバル化の中にある“おかやま”の位置づけを知識として学び、地域に住む様々な人と接するために、大学生と社会の接点の現状や在り方について学びました。また、“おかやま”のフィールドにおいて、ボランティア実習を行うことにより、ボランティア活動や社会貢献の意義について理解を深めました。



おかやまボランティア論では大講堂でアクティブラーニング



夏休み寺子屋「まなびのわ」で学習支援活動(NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会)

STEP.1

地域再生実践論

少子高齢時代の今、地域の抱える問題やグローバル化の時代における地域産業の活性化や新事業創生の在り方について学びました。また、アクティブラーニングを取り入れた内容で「地域協働演習」にリンクしており、協働へのアプローチの手法を学びました。



熱心に議論したグループワーク

アイデア発想法も学びました



地域協働演習

総社市、笠岡市、備前市、真庭市のそれぞれのフィールドでの地域課題に対して、グループワークを通して、コミュニケーションの大切さを学びながら、地域住民、NPOと協働して、地域の課題解決に取り組みました。また、自分たちの専門性がどのように地域に貢献できるか考えるきっかけとなりました。



たくさんの方にお世話になりました



完全オリジナル「木山の遊び場」



多くのフィールドワークも行いました

STEP.2

専門を活かし、就業を意識した長期演習プログラム

主体的に働くことの重要性を改めて学びました。



政策提言で自ら発信するためには基本知識を身につけることが大切だと気づきました。



品質管理の現場では、社員の仕事に対する姿勢を学びました。



プログラミングの仕事でもコミュニケーションがとても大事でした。



社内ミーティングにも実際に参加し、意見も求められました。



長期インターンシップで学んだことをしっかりと発表しました。



おかやまCOC+シンポジウムでも自分たちの取組をポスターにまとめ、発表しました。



STEP.3

- ◆自治体や企業でのインターンシップを経験し、即戦力が期待できます。
- ◆地域の皆さんとともに、地域づくりに取り組み、地域を元気にします。



「岡山創生学」…基礎科目では社会連携に繋がる基礎知識や岡山県の地域施策等を学び、実践科目では地域課題の発見と解決への過程を、アクション・ラーニングを通して学びます。

「副専攻」…主専攻の専門教育以外の分野や考え方を学ぶことで、専門教育を補完するだけでなく、大学での学びの幅を広げ、修学意識が高められる制度です。

気になる職の経験が身につく！

2019
2.18日

地域創生推進士が創る おかやまCOC+ シンポジウム2019開催

主催 おかやまCOC+推進協議会
会場 シンフォニーホール3階
イベントホール

今回のシンポジウムは「地域創生推進士が創るシンポジウム」として、「おかやま」への深い理解と熱い愛情を持ち「おかやま」の創生に貢献したいという強い意志を持った学生を、「おかやま」の次の時代を担う人材であると岡山県立大学長が認定した「地域創生推進士」となる学生が、計画段階から参画しました。全体の統括や当日の総合司会、パネリスト、コーディネーター等も務め、さらに地域創生推進士やその認定を受けるためにこれまで学んできたことをポスターで発表しました。



辻 英明
学長



伊原木 隆太
県知事



講師の松崎 光弘 特任教授

開催にあたり、岡山県立大学の辻英明学長及び伊原木隆太県知事より開会挨拶がありました。続いて、東北学院大学の松崎光弘特任教授により「企業・自治体との相乗効果 産学連携、域学連携を通して大学は地(知)の拠点になっているか」と題した基調講演が行われました。その後、ポスター発表の後、くらしき作陽大学の宿老の2名と長期インターンシップに取り組んだ岡山県立大学の2名、総社市政調整課の西川茂課長及びオーエム機器株式会社の長谷川昌和専務取締役によるパネルディスカッションが行われました。

ポスター発表

「岡山創生学の理念と地域創生推進士」

情報システム工学科 高畑 孟宏 樽谷 暁光 守屋 学人

「私たちがめざす 地域創生推進士」

情報通信工学科 井上 悠太 三宅 真子 安井 悠貴
人間情報工学科 藤田 瑞基

「地域住民に安心な医療を!!」

～地域創生推進士として医療専門職で活躍するには～

看護学科 原野 愛理
栄養学科 板谷 智恵美
保健福祉学科 鈴木 勝之

「地域インターンシップの成果～公務員への道～」

人間情報工学科 曾根 海斗 岡本 光稀 難波 裕昌
吉田 拓人 坂東 直樹

「エンジニアリング演習から見てきたこと」

情報通信工学科 高津 芳希
人間情報工学科 田中 理沙 渡部 皓太 渡部 拓斗

「デザインプロジェクト演習～専門性を組み合わせた地域支援」

情報通信工学科 浅野 敬恵
保健福祉学科 瀬良 梓 仁内 茉莉

「総社市役所 政策提言～インターンシップを経て～」

人間情報工学科 小林 悠理 藤井 佑季奈 山口 桃果

「多くの経験をした 災害ボランティア」

人間情報工学科 東 翔大
太田 圭祐
水子 祐希
情報通信工学科 安井 悠貴



受付を準備する地域創生推進士



総合司会も務めました



パネルディスカッションで意見交換!

編集後記 村井聡紀



第4号は3月4日に認定書を授与された第一期生の「地域創生推進士」を特集しました。3年間の積み上げてきた経験は、今後の就職活動やゼミでの活動にも良い影響を与えることでしょうし、将来的には「仕事」への向き合い方にも大いに役立つのではないのでしょうか。

認定証が授与されたからといって、大きな変化が現れるわけではないかと思っています。これから本人たちがどのようにアクションしていくのかによって、この称号の価値が生まれてくると思います。私は「地域創生推進士」の第一期生の今後の活躍に期待しています。

COC+NEWS LETTERへのご意見、ご要望、記事の投稿をお待ちしています。



産学連携

12/21 金

OPU協力会 業種説明会

場所 岡山県立大学

全学部全学科を対象としたOPU協力会第1回業種説明会を開催しました。各業界・業種を代表する会員企業に来学いただき、自社の置かれている業界の将来展望・方向性や重点的取組み内容が説明され、参加学生40名は熱心に聴講していました。企業からは、英語力、世代を超えたコミュニケーション能力、レクリエーション活動等を通じた連帯感が大変重要であると発信があり、聴講した学生らは将来の進路決定や企業選定の上で大変参考になったとの意見が多く寄せられました。



参加企業リスト

井原精機株式会社 (機械)・みのる産業株式会社 (農業機械)
株式会社システムエンタープライズ(ソフトウェア)・サノヤス造船株式会社 (造船)
株式会社英田エンジニアリング (設備)・内山工業株式会社 (化学)

3/1 金

OPU協力会 企業説明会

場所 岡山県立大学

2020年春に卒業・修了予定者向け会社説明会が3月1日に解禁され、就職活動が本格的にスタートしました。これを受け、岡山県立大学協力会主催で全学部全学科を対象とする合同会社説明会を初の試みとして開催しました。本学学生(主として情報工学部 計65名)の就職希望者に対して、参加企業(会員企業 計36社)から募集要項等の説明が個別ブースで行われました。人手不足を背景として、会員企業の採用意欲は旺盛であり、積極的に参加学生に対し企業PRが行われました。特に技術系の人材確保には、最大限取り組み姿勢が強く窺われました。今後も、OPU協力会の行事として、定期的開催することを計画しています。



参加企業リスト

株式会社英田エンジニアリング・アサゴエ工業株式会社・株式会社アステア・板野機工株式会社・井原精機株式会社・内山工業株式会社・オーエム機器株式会社・オーエム産業株式会社・株式会社岡山情報処理センター・片山工業株式会社・倉敷化工株式会社・株式会社ケイエスピー・コアテック株式会社・サノヤス造船株式会社・三陽機器株式会社・山陽電研株式会社・株式会社システムエンタープライズ・株式会社システムズナカシマ・株式会社システムタイズ・シャープタカヤ電子工業株式会社・セリオ株式会社・タカヤ株式会社・株式会社トシボ・株式会社ナイカイアーキッド・株式会社ナテック・株式会社NICS・萩原工業株式会社・ピープルソフトウェア株式会社・株式会社ビザビ・ヒルタ工業株式会社・富士ベークライト株式会社・株式会社ベネッセインフォシエル・みのる産業株式会社・ユアサ工機株式会社・ユアサシステム機器株式会社・株式会社両備システムズ



域学連携

3/5 火

みんな集まれ!まにわキッズ 岡山県立大学のおねえさんと楽しもう

場所 真庭市立中央図書館2階キッズスペース
参加学生 保健福祉学科子ども学専攻 4名
担当 保健福祉学科子ども学専攻
… 佐藤和順教授、柏まり准教授
連携団体 真庭市勝山振興局、真庭市立中央図書館

子育て支援プロジェクトとして、未就学の子どもたちに対して、親子ふれあい遊びや大型絵本の読み聞かせを実施しました。参加者は保護者を含めて31名(14組)で楽しく親子で過ごし、大盛況でした。



12/5 水

健康づくりのための ウォーキングの秘訣

場所 地域創生commonsかさおか
参加学生 情報系工学研究科 1名
担当 人間情報工学科 … 綾部誠也准教授
連携団体 笠岡市健康福祉部健康推進課

前半に講義を行い、後半にウォーキング実習として、参加された笠岡市民8名のスタミナを測りました。



連載 七番勝負第四局

どの学部学科でも
受講できます!

教育改革の取り組み

～副専攻「岡山創生学」の開設による地域志向人材の輩出～

若者の地元定着を図るために、COC+の教育改革の取り組みでは、地域「おかやま」を志向した人材を育成、輩出することとしています。

そのため、学部・学科における専門教育(主専攻)に加えて学ぶことのできる副専攻として、平成28年度から「岡山創生学」を開設しました。

「岡山創生学」は講義と演習で構成され、学生は、知る(知識)→学ぶ(協働)→高める(実践)の3ステップで、地域の抱える課題の発見からその解決プロセスを考えることに取り組みます。

「岡山創生学」の必要単位を取得し、おかやまCOC+シンポジウム、OPUフォーラム等の公開イベントにおいて成果発表を行った、「おかやま」への深い理解と熱い情熱を持ち、「おかやま」の創生に貢献したいという強い意思を持った学生に対し、地域を志向した人材の証として「地域創生推進士」の称号を授与します。(取り組みの詳細は今号の特集記事で紹介)



副専攻「岡山創生学」のプログラム

COC+ クロスワードパズル

※カタカナでお答えください

※小文字の拗音(ヤ、ユ、ヨ)や促音(ッ)は大文字の直音として扱います

1	2	3	4	5	6
7 D			B		8
9				10	
11 E			12 C		13
	14	15			16
17					18
19 A					

ヨコのカギ

1. 笠岡市北木島出身の大悟とノブからなる漫オコンビは「〇〇〇」。
4. 笠岡諸島最南端の島であるとともに、岡山県の最南端でもある「〇〇〇」。
7. あることを教え、継続的に練習させ、体得させることを「〇〇〇〇」という。
8. 周田よりも高く盛り上がった地形や場所のことを「〇〇」という。
9. 寝ているときなどに、狭くなった上気道が呼吸時に擦れて出す音を「〇〇〇」という。
10. 生態学「〇〇ロジー」の略語、「環境にいい」という意味で使われる。
11. 社会ややる組織の中で、人や物の占めている位置を「〇〇」という。
14. 笠岡諸島で2番目に大きい「〇〇〇〇〇〇」は、国指定の名勝になっている。
18. 刃物の身の部分を包む覆いのことを「〇〇」という。
19. 笠岡市の「〇〇〇〇〇」の繁殖地は国の天然記念物に指定されている。

タテのカギ

1. 順を追って、一つ残らず取り上げていくことを「〇〇〇〇」という。
2. 笠岡市高島にある巨石の一つ「〇〇〇〇〇」。
3. ある人が現在までに経てきた学業・職業などの経歴のことを「〇〇〇」という。
5. 笠岡市で水揚げされ、名物でもある甲殻類の一種「〇〇〇」。寿司のネタにもなる。
6. 一説では、「〇〇」は赤子が最初に発する音であることから、母親の意味がつけられた。
12. 七福神の一人の恵比須は釣竿で「〇〇」を釣り上げた姿をしている。
13. 笠岡諸島沖で早朝に捕れた天然真鯛を稲わらで包み蒸した桜鯛の「〇〇〇〇」。
15. 右翼手。野球、ソフトボール、キックベースなどの守備のポジションを「〇〇〇」という。
16. 各地によって違う時刻の差を「〇〇」という。
17. 笠岡市曹洞宗威徳寺に「いも代官」こと井戸平左衛門正明の「〇〇」がある。

回答	A	B	C	D	E
----	---	---	---	---	---

プレゼントに応募しよう!

PRESENTS

クロスワードパズルを解いて、プレゼントに応募しよう。連携自治体の笠岡市の問題を出题しています。必要事項を記入の上、右記メールアドレスまで応募ください。正解者の中から抽選で10名様に「岡山県立大学グッズセット」をプレゼントします。(今回は笠岡市からカブトガニの標本(幼生)のプレゼントもあります。)



10名様

必要事項

- 件名に「クロスワードプレゼント」と記載。
- 本文に「答え」「氏名」「郵便番号」「住所」「年齢」「電話番号」を記載。

個人情報の取扱について

- お寄せいただいた個人情報は、当クロスワードパズル以外の目的には使用いたしません。

✉ メールアドレス : cocplus@oka-pu.ac.jp

締め切り : 2019年5月31日 金